

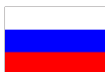
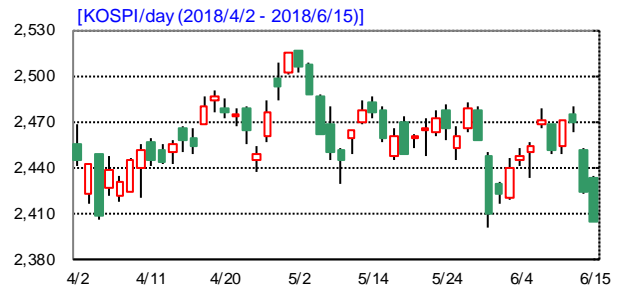


【韓国】 総合指数は週間で 1.9%安と反落、今週は買い戻し優勢も上値重い

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.9%安と反落。13 日が地方選挙のため休場で、4 日間の取引となった。週初の 11 日に反発して始まったものの、その後は売りが続く展開。12 日の米朝首脳会談を巡り、開催前は北朝鮮に対する支援の思惑から関連銘柄に買いが入ったが、イベント通過後は売りが優勢。また、13 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) を受けて米長期金利の上昇が加速するとの見方が強まったことや、韓国ウォンが米ドルに対して下落基調にある中、資金流出懸念が高まったことも相場を重くした。指数は週末の 15 日に 3 月 7 日以来、約 3 カ月ぶりの安値で引けた。今週は安値圏での買い戻しが入りやすい状況だが、米中通商問題や米長期金利の上昇を念頭に上値が重い。国内では 19 日に輸出入物価指数が発表される。

▼指数チャート

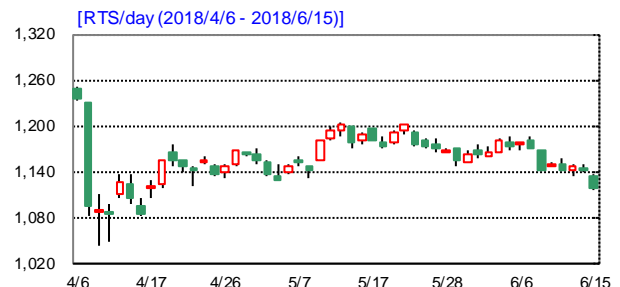


【ロシア】 RTS 指数は 2.8%安と 5 週続落、今週は OPEC 総会控え神経質な展開

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.8%安と 5 週続落。ドル高による資金流出懸念に加え、週末の原油相場急落が重しとなった。先週は 12 日がロシアの日で休場となり 4 日間の取引。14 日までは上げ下げを繰り返すも、原油相場が堅調に推移し、下値を支えた。ただ、15 日に原油相場が急落すると RTS 指数も下落幅を広げた。ブレント原油先物は 14 日までは 75-77 ドルのレンジで推移したが、15 日に 73 ドルをつけて 5 月上旬以来の水準に下落。今月 22 日の OPEC 総会で原油協調減産の緩やかな解除を決めるとの見方への警戒感が強まった。原油安を受けて RTS 指数は 2.1%安と急落し、4 月 16 日以来の水準まで下落。週間では 5 週続落と、2017 年 6 月以来の長期続落となった。今週は 22 日の OPEC 総会を控え神経質な展開か。

▼指数チャート

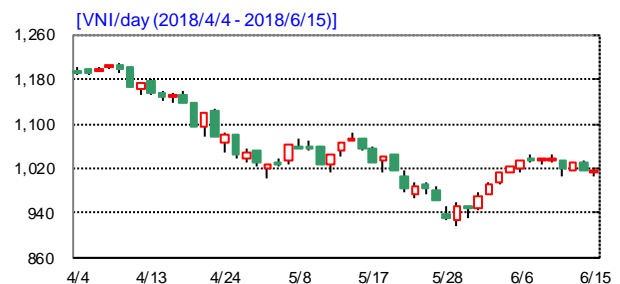


【ベトナム】 VN 指数は 2.2%安と 3 週ぶり反落、今週も資金流出懸念が重しか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.2%安と 3 週ぶりに反落。前週までの 2 週間で 7.8%の大幅高となった反動で利益確定売りが広がった。週明け 11 日は横ばいだったが、12 日はペトロベトナムガスやベトナム投資開発銀行などが 4-5%下落。指数は前日比 1.8%安で引けた。13 日は 1.0%高と反発したが、14 日は 1.4%安と反落。米ドルが全面高となり、新興国市場からの資金流出懸念が強まった。指数構成銘柄は 358 銘柄のうち 130 銘柄が上昇し、16 銘柄が変わらずで、212 銘柄が下落。ビナムルクが 1.7%高となった一方、保険のパオ・ベト・ホールディングス (10.8%安)、ベトナム投資開発銀行 (7.9%安)、不動産のビンホームズ (2.9%安) などが指数を押し下げた。今週はドル高の流れを背景に資金流出懸念が引き続き重しとなるか。

▼指数チャート

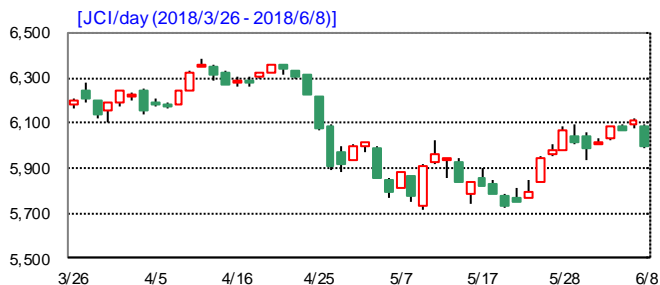


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は断食明け大祭の連休で休場、今週は 20 日に取引再開

ジャカルタ総合指数は断食明け大祭の連休で 11-15 日の 1 週間を通じて休場。今週も 19 日まで一連の祝日が続く、取引が再開される 20 日以降も週末まで国内の経済イベントが少ないため、外部要因が株式相場を左右する展開になりそうだ。連休中に開催された米 FOMC で政策金利が市場の予想通り 0.25 ポイント引き上げられたことに加え、今年の上昇回数在今后の 2 回を含む 4 回になるとの見通しが示されたことに対する市場の反応も注目材料。インドネシア中銀は通貨ルピアの急速な下落阻止を目的として 5 月に 2 回の利上げを実施しており、今後も必要に応じて利上げを継続する可能性を示唆している。

▼指数チャート

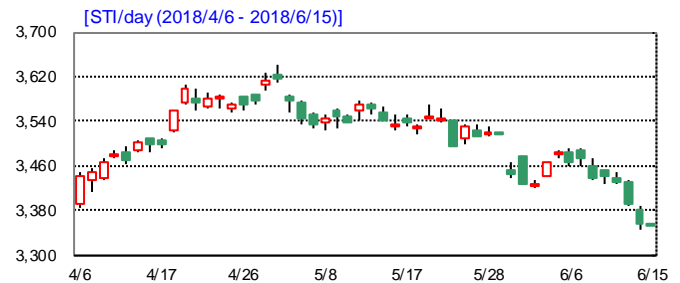


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 2.3%安、今週は 5 月の非石油地場輸出が焦点

スレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 2.3%安と反落。週初こそ反発したが、その後は軟調な値動きだった。12 日は 4 月の小売売上高が前年同月比 0.4%増でマイナス成長だった前月からプラスに転じた一方、前月比での 0.2%減が嫌気されて反落。13 日は米国で開催中だった FOMC での追加利上げが確実視されていたことを受けて金融株が売られ、指数は終値で前日比 1.1%下落した。14 日は利上げの決定に加え、米中の貿易摩擦が再燃した影響で、さらに 1.1%安と約 2 カ月半ぶりの安値を更新して週の取引を終えた。今週は 18 日に発表される 5 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

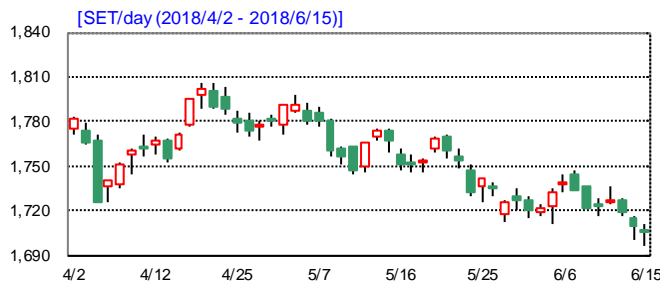


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 1.0%安と反落。週半ばからの下落が指数を押し下げた。週初の 11 日は米朝首脳会談を翌日に控え、朝鮮半島の緊張緩和への期待感から買われて小幅ながら 3 営業日ぶりに反発。12 日はエネルギー株と消費関連株が指数上昇をけん引した。一方、13 日は FOMC 後の声明発表を目前に控えた様子見で反落すると、その後も買い材料に乏しく週末まで 3 日続落して取引を終えた。今週は 20 日に中央銀行が定例会合を開催する予定で、政策金利は 1.50%に据え置かれるとの見方が優勢。外部要因では 22 日に開催される OPEC 総会や、深刻化が懸念される米中貿易摩擦の動向が株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

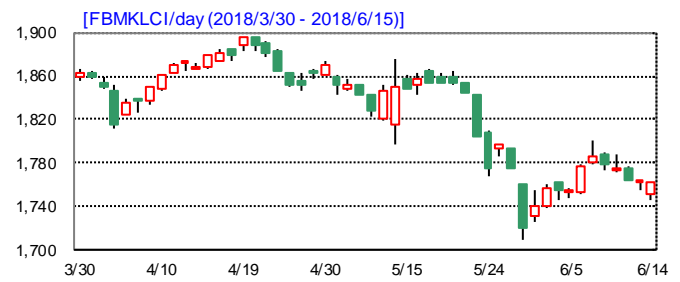


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.9%安、今週は 20 日に 5 月の CPI 発表

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.9%安と反落。週初からじりじりと下値を広げた。11 日は 4 月の鉱工業生産が前年同月比 4.6%増と市場予想から上振れしたものの、大引け間際の利益確定売りが響き小幅ながら続落。12 日は米ドルに対するリンギ安が嫌気されて売られた。断食明け大祭の前日のため半日立ち合いとなった 14 日は、FOMC の利上げ決定や米中の貿易摩擦再燃に加え、中国の 5 月の小売売上高と固定資産投資が低調だったことも投資家心理を冷やし、前週末から 5 営業日続落して引けた。今週は 20 日に 5 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 2%を下回るとの見方が優勢。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。